

新たな一歩

宮崎県教育庁義務教育課
義務教育・学力向上第二担当
指導主事 増田邦明

昨年10月、本県において、結成70周年の節目となる全国へき地教育研究大会が開催されました。初のハイブリッド型研究大会として、2日間でのべ1000人を超える教育関係者に御参加いただき、へき地教育の充実・改善のための熱心な協議が行われました。県内8校で実施された授業公開では、国語科、算数科を中心に少人数の利点を生かした指導やICTを効果的に活用して互いの意見を共有したり、比較したりしながら学びを深める授業が行われました。また、地域の特色や資源等からふるさとについて考え、発信する学習など、へき地・小規模校ならではのよさを生かした教育活動が展開されました。本大会に関わっていただいたすべての方々に、改めて心より感謝申し上げます。

さて、本年度8月、文部科学省初等中等教育局より、過去10年間で公立小中学校の学校数が9.9%減少、同児童生徒数は9.8%減少していることが示されました。

本県におきましては、児童生徒数の減少等により、ここ10年間で、小学校は24校、中学校は19校の学校が統廃合されました。しかし、令和3年度には2校、本年度は1校の義務教育学校が新設され、地域の特色を生かした新しい学びの場が県内に広がりつつあります。また、へき地等学校は、小学校25校、中学校12校、義務教育学校2校の計39校と、全学校の約11%を占めています。加えて、平地校においては県内の約12%にあたる42校が複式学級を有する現状にあります。

このような状況の中、県教育委員会では、第二次宮崎県教育振興基本計画の施策の目標IV「魅力ある教育を支える体制や環境の整備・充実」の中で、小規模校ならではの「よさ」を生かした教育の推進と教職員の資質向上に向けて、へき地・小規模校の教育の充実を図っているところです。

例えば、各学校に配付している「複式学級を有する学校のために～複式学級指導資料～(冊子・DVD)」では、複式学級特有の教育的課題をはじめ、教育課程の編成や具体的な指導方法について実践的な内容を示しており、日々の授業や研修において積極的な活用が図られております。また、初めて複式学級の担任になった先生方を対象に、職能研修「複式学級初担任～複式学級における学習指導の在り方～」を行っております。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となりましたが、本年度はオンライン形式で実施し、44名の先生方が、「わたり」や「ずらし」などの具体的な指導方法や実践例について学びました。

さらに、7月に開催したへき地教育推進委員会では、推進委員より、自校の現状と課題が報告されました。特に、1人1台端末の活用により、個別学習の充実や遠隔地との交流が図られ、学びの広がりや深まりが見られているようです。今後もICT機器が、子供たちの主体的・対話的で深い学びを促す有効なツールとなり、へき地・小規模校の課題解決の一助となるよう、県教育委員会におきましても、効果的な活用の研究を進めて参ります。

昨今の少子化に伴い、小規模校は希少な存在ではなくなりつつあります。このような現代において、これまでへき地・小規模校で取り組まれてきた少人数教育や体験活動等は、未来の学校に必要な取組になるのではないのでしょうか。昨年度の全国大会を終え、私たちは、へき地・小規模校の教育の推進に向けて新たな一歩を踏み出しました。今後も、各学校の教育活動の充実と子供たちの未来のために着実に歩み続けていきたいと思っております。